

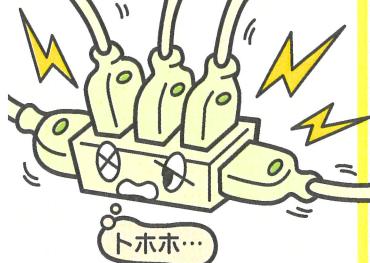
電気を正しく安全にお使いください

毎日の暮らしに欠かせない便利なエネルギー、電気。しかし、簡単に使えるから……、スイッチを入れるだけで便利だから……といつて、まちがった使い方をしたり、故障した電化製品をお使いになりますと、感電したり漏電から火災をおこすなどの事故につながってしまいます。このパンフレットは、皆さまに電気を正しく安全にご利用いただき、ステキな暮らしにお役立ていただけるよう、お届けいたしました。

ムリや「まあいいか…」にご注意ください



長期間、差し込んだままの電気器具は
プラグを抜いて乾いた布で
ホコリや湿気をふき取りましょう。



テーブルタップの容量を超えると
過熱の原因になります。
たこ足配線はやめましょう。



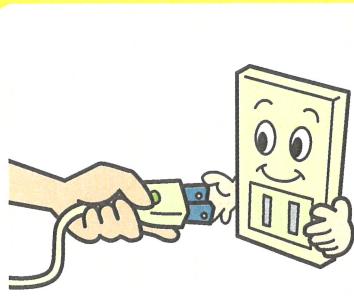
濡れた手でコンセントや
プラグに触れるのはやめましょう。



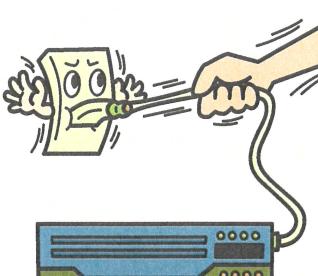
コードへの打ち付けは断線や
過熱の原因になり危険です。
電気工事店に工事を依頼しましょう。



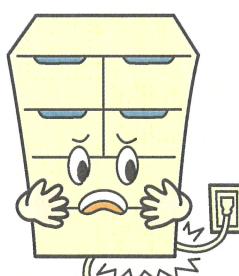
コンセントの破損は感電の
原因になり危険です。電気工事店に
修理を依頼しましょう。



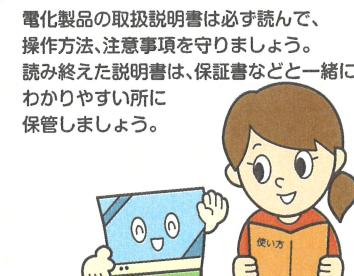
差し込み不足は過熱の原因に
なります。プラグはコンセントに
しっかりと差し込みましょう。



電気器具をコンセントから
抜くときはプラグの
根元を持って抜きましょう。



断線や過熱の原因になりますので、
コードの上には家具類を置かない
(踏みつけない)ようにしましょう。



電化製品の取扱説明書は必ず読んで、
操作方法、注意事項を守りましょう。
読み終えた説明書は、保証書などと一緒に
わかりやすい所に
保管しましょう。

漏電による火災や感電事故を防ぐために

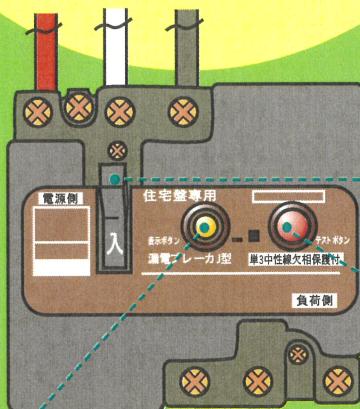
漏電遮断器 ・アース

漏電遮断器とは？

●漏電遮断器は、万一電気配線や電化製品が漏電をおこしたとき、自動的に電気を止めて事故を防ぐ装置です。

単相3線式配線には、「中性線欠相保護付」漏電遮断器をご使用ください。

●アースは、電化製品が漏電したとき、漏れた電気を地中に流し、器具に触れた人を感電から守るための配線です。



◆漏電遮断器が切れたときは、ご使用中の電化製品をコンセントから抜いて、ツマミを「入」にします。それでも切れるときは、配線の漏電が考えられます。電気工事店・軽電気工事センターへご連絡ください。

〈テストボタン〉

◆遮断器が正しく動作するかどうか、月に1度、テストボタンを押し、スイッチが確実に切れるのを確認してください。ボタンを押しても切れないときは故障です。電気工事店・軽電気工事センターにご相談ください。

災害時の注意

地震でグラッときたら、あわてず行動を！

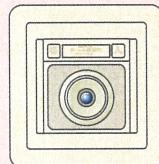
避難まえに ブレーカーをOFF!

アイロンや電気コンロ、ヘアドライヤーなど、熱器具のスイッチを切らずに避難されますと、電気が復旧したとき、火災などの二次災害をおこす原因になります。また、電化製品や屋内配線が破損してますとショートをおこしたり、漏電や感電の危険があります。避難される場合、たとえ停電になっていても「電気の元栓」分電盤のアンペアブレーカーを「切」にしてから避難してください。

電気のスイッチを入れる前に

家に戻って電気のスイッチを入れるときは、
▶電化製品や配線に異常がないか
▶ガス漏れはしていないか
…を確認してからブレーカーやスイッチを「入」にしてください。ガスが漏れていた場合、スイッチの火花でガス爆発のおそれもあります。

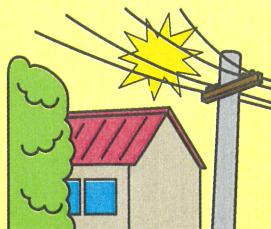
停電や災害に ホーム保安灯



常にコンセントに差し込んでおきますと、停電と同時に内蔵された蓄電池によりランプが自動点灯します。コンセントから外せば、そのまま懐中電灯として使える便利なこともあります。

台風シーズンをむかえて

アンテナや庭木はだいじょうぶ？

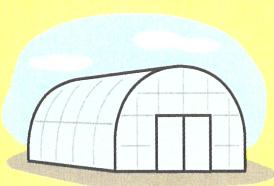


アンテナや庭木が強風で倒れたり、折れたりして電線に触れると危険です。アンテナは堅固に固定し、庭木の枝等は、適当な高さに伐採しましょう。電線との間に必ず安全距離を確保する必要がありますので、電線の近くで作業する際は、事前にネットワークコールセンターへご連絡ください。

お問い合わせ
連絡先

ネットワークコールセンター

トタン屋根や ビニールハウスはだいじょうぶ？



強風でシート類やトタン屋根等が飛散し、電線に掛け停電になる事例が発生しています。台風シーズン前にビニールハウスやトタン屋根等の点検・補修・補強を行つて飛散を防いでください。電線に掛かっているものを見つけた場合は、絶対自分で取ろうとはしないでください。

0120-175-366